

萩

萩ネットワーク

第67号 2006年1月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL0838・25・3178 FAX0838・26・5458

萩ポータルサイト「萩・情報の駅」

<http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/>

国の名勝・天然記念物である「長門峡」は05年3月の合併により、萩市の景勝地となりました。そこで長門峡三題。

①大正9年、それまでの長門耶馬溪は萩出身の日本画家・高島北海によって探勝路が整備され、長門峡と命名、観光名所となる。晩年の北海は、長門峡のほか須佐湾、長門の青海島など郷土の景勝地の紹介や整備に熱心に取り組む。

②昭和7年、萩市制施行を記念して鳥瞰図の大家・吉田初三郎は「萩市鳥瞰図屏風」に市街地と共に長門峡を観光地として刻明に描く。複製が萩博物館の正面入口に展示。

③小説家・高樹のぶ子が北海を主人公にした評伝風フィクション「HOKKAI」を刊行（15ページ参照）。冬の長門峡といえば、中原中也の詩「長門峡に、水は流れてありにけり。寒い寒い日なりき・・・」。

2006 NEW YEAR

冬の長門峡



笠山椿群生林	P2
新年のごあいさつ（野村興児）	P2
萩出身者と市長が意見交換	P3
軍人・山田顕義（秋山香乃）	P4
ズームアップ 東京指月会「浅野哲」	P5
小国ファーム「下瀬盛」	P6
萩の元気企業「(株)岸田商会」	P7
ふるさと便り	P8
同窓会だより、会員だより	P9

目次

毛利家の殿様御膳を再現	P10
旬の味覚便り「干しフグ」	P10
「萩商工高校」設置式	P11
萩ものしり博士検定	P11
夢追人 陶芸家「金子司」	P12
野坂康起、下瀬信雄氏の受賞	P13
萩博物館・浦上記念館だより	P13
情報アラカルト、高樹著「HOKKAI」	P14、15
萩沖の島々を巡る⑦大島Ⅲ	P16

12月27日に開花宣言！

笠山椿群生林

笠山椿群生林は、12月27日に開花宣言しました。開花期間中の2月18日から3月21日までは恒例の萩・椿まつりが開催されます。

全国でも有数の椿群生林。椿の絨毯が敷き詰められる散歩道を散策してみたいいかがですか。2万5,000本のヤブツバキが皆さんをお迎えます。



▲05年萩・椿まつり写真コンテスト作品

開花宣言

群生林内の開花基準木7本すべてが花をつけた12月27日、開花宣言が行われました。

夏の高温、乾燥と、12月の寒波により、例年よりやや遅い開花となります。

萩・椿まつり

椿が一番の見頃を迎える2月中旬から3月下旬まで開催されます。

■とき 2月18日(土)～3月21日(火・祝)

■ところ 萩市笠山椿群生林

■内容 郷土芸能披露、抹茶席(初日と期間中の日・祝のみ)

■問い合わせ 萩市観光課

(0838・25・3139)

●椿見どころ案内人によるガイド

開花宣言から3月下旬まで椿群生林内の見どころ、スポットをご案内します。奥深い萩の椿に出会えることでしょう。

■申込方法 予約制(交通費として千円必要)

※椿まつり期間中の土・日曜日、祝日(午前10時～午後4時)は、まつり本部(椿群生林内)にて随時受付(無料)

■申込先 萩観光ボランティア協会(0838・25・3527)

●萩城下町の古き雑たち

江戸時代から受け継がれてきた享保雛、有職雛、古今雛、小萩人形雛など逸品を展示。観光客にも好評です。

■とき 2月3日(金)～4月3日(月)

■ところ 旧久保田家住宅(萩市呉服町 菊屋家住宅前)

■問い合わせ 萩市観光課

(0838・25・3139)

●萩ものがたり①「萩の椿」

好評発売中!

笠山の椿や市内周辺の椿の生態や由来を紹介。椿のカラー写真と椿群生林のガイドマップも収録。この本を片手に群生林を散策する格好の一冊。

■問い合わせ 萩ものがたり

(0838・25・3233)

新年のごあいさつ

萩ネットワーク協会会長

萩市長 野村興兒



○日本の人口の減少が始まる

昨年末、我が国の人口が減少に転じたとの衝撃的な発表が行われました。人口統計を開始した明治32年以来、戦時中の空白期間を除けば、初めての減少。死亡者数が出生者数を上回り、初の自然減少を生じたのです。これは国全体の話ですが、萩市としては、全国に先行して、人口減少は既に毎年毎年続いているところで。同じ時期に発表された国勢調査の結果によると、新市は5年前に比べると3700人の減少。このような事態に対処するため、国は少子化対策担当閣僚を設け、本格的な検討を始めています。新市でも、この問題への対応は喫緊の課題。特に問題は、若い世代が、萩から流出していく事。この地に定着できるような環境整備をどう行うか、安定した雇用をどう確保するか。一方、後継者不在の農業、漁業等の分野での雇用のミスマッチにどう

対応するか。やれることは、何でも取り組んで行こうとの心構えで臨むこととしています。

○長州ファイブが映画に

今から143年前、松陰先生や晋作の遺志を継いだ5人の萩の若者が、藩命により、命をかけて英国に留学。帰国後は、各分野で活躍し、我が国の近代化の礎を築くこととなります。5人は、少年・青年時代を萩の地で学び、「長州五傑」と言われてきましたが、英国では、日本の近代を拓いた若き群像「長州ファイブ」として、高い評価を得ています。昨年末は、萩で、今月からは英国で撮影が続けられ、秋には山口県内で、07年春に全国一斉に封切りされる予定です。5人の若者の物語は、次代を担う若き世代に、勇気と希望を大いに与えてくれるものと信じてやみません。

○年末年始開館している萩博物館

開館して1年余りとなります萩博物館も、NPO萩まちじゅう博物館の皆さんの尽力で、今年も年末年始の開館となりました。昨年は観光客や帰省客から感謝の言葉が多く寄せられました。

末尾になりますが、会員の皆様のお多幸をお祈り申し上げ新年のご挨拶いたします。

全国高校ラグビー 萩工業4年連続花園出場



▲04年12月全国大会1回戦

目標はベスト8!!

萩

工業ラグビー部は、11月20日、山口県大会決勝で大津高校に圧勝（67対8）し、花園ラグビー場（東大阪市）で行われる「全国高校ラグビーフットボール大会」に4年連続11回目の出場を決めました。

山根拓郎主将は「昨年は初戦敗退で悔しい思いをしたので、今年は必ず1回戦を突破し、期待に応えたい」と大会に向けての決意を語りました。萩工業は、一昨年に初めて3回戦まで進みましたが、惜しくもベスト8入りを逃しています。

全国大会1回戦（12月27日）は石川県代表で姉妹都市の輪島市にある日本航空第二と対戦（2回戦は12月30日、黒尻北戦）。念願のベスト8に向けて活躍が期待されます。

地域振興にお知恵拝借

東京・大阪・福岡
で萩出身者と
萩市長が意見交換

萩市は、第1回目の「萩まちづくり推進懇話会」を10月12日に大阪で、11月8日に東京で、11月16日に福岡で開催しました。

各会場とも、10人程度の萩市とその周辺出身、または萩とゆかりのある企業経営者・会社幹部・大学教授など各産業界で活躍されている方々に参加いただき、野村萩市長と萩のまちづくり、地域振興について意見交換を行いました。

この懇話会は、都市圏で活躍されている萩出身の企業家や経営者などからお知恵を借り、それを萩のまちづくりや地域振興につなげるのが狙い。

懇話会では、まず野村萩市長が合併後の萩市の現状と課題等を説明。その後、参加者から感想や意見、提言などが出されました。

今後、出席者から具体的な提言・提案をレポートで提出してもらい、それぞれの提言を市の担当課で議論。その結果を、3月までに開催する第2回目の懇話会で具体的施策として検討することになっています。

【参加者からの主な意見】

- 地元産業界に元気がない。まちぐるみでまちづくりの取り組みを
- 観光客や修学旅行客が江戸時代を体験できるまちに
- 一体感の醸成に有効な映画制作
- 青果市場や魚市場を観光客に対する食の文化拠点に
- U、J、タータン対策として、住宅を整備して芸術家・作家を誘致
- 田町商店街に朝市・露店、集客の核となる施設を
- 都市部で売れるものを供給できる仕組みを

2005年

萩市の
ニュース

●新「萩市」が誕生（3月）

萩市、川上村、田万川町、むつみ村、須佐町、旭村、福栄村の1市2町4村が合併し、新「萩市」が誕生。面積は69.9km²、人口は5万7989人（05年国勢調査）。

初代市長には、旧萩市長の野村興児氏が就任。新市議会は合併前の議員94人が在任し、任期は06年の4月30日まで。

●萩温泉郷がスタート（4月）

昨年越ヶ浜中学校敷地内で掘り当てた「はぎ温泉」を市内8つの旅館・ホテルに配湯を開始。これまで市内にあった温泉と合わせ、7つの源泉で「萩温泉郷」としてPRを始める。

●萩国際大学

民事再生法を申請（6月）

学生の定員割れから経営難に陥った大学としては全国で初めて東京地方裁判所に民事再生手続き開始の申立てを行う。10月には再生計画案を提出し、07年4月に社会福祉系の「ライフデザイン学部」の設置を目指す。

●萩ものしり博士検定（11月）

楽しみながら萩の魅力を学んでもらう検定を実施し、県内外から234人が受験。213人が合格し修士に。

軍人・山田顕義

萩市民大学教養講座「山田顕義 法治国家へのあゆみ」から

11月16日、萩市民館で、作家・秋山香乃さん（北九州市在住）による講演会「山田顕義 法治国家へのあゆみ」が行われました。秋山さんは、現在山口新聞に掲載されている連載小説「晋作蒼き烈日」を執筆している若手女流作家です。講演会では、司法家として有名な山田顕義の、軍人としてのエピソードを話されましたので、一部ご紹介します。



山田顕義

山田顕義は、初代の司法大臣で日本の近代法典のほとんどを手がけましたが、もともと非常に優れた軍人でした。

西南戦争にて・・・

まず、人柄を表すエピソードを紹介しましょう。

1877年（明治10年）の西南戦争のとき、山田顕義は、明治政府側で、別働第2旅団を率いていました。

戦争には、必ず見張りの兵が必要ですが、この見張りが居眠りをしてしまったらどういうことになるか。敵が攻めてきたら、大変なことになってしまいます。居眠りをした兵は当然厳重に処罰されます。しかし、人間はどうしても眠くなってしまいます。

見張り兵は居眠りをしてしまい、はっとして目を覚ますと、自分の肩にコートがかけてありました。上司に告げ口をされるのではと恐れ見ると、自分の代わりに見張りに立っていたのは、その上司の山田顕義だった、という話です。

山田は、兵がどうしようもなく眠いときに、黙ってコートをかけてやり、代わりに見張りをするよいう人だったのです。

普段は無口ですが、部下にはとても優しい人だったと言われています。



顕義園（萩市椿東）

函館戦争にて・・・

彼は、函館戦争では陸海軍総督を務めます。黒田清隆が五稜郭を落したと言われていますが、山田が総督として落したのです。

ただ、早く死んだのと、本人があまり自慢をする人ではなかったの、時がたつにしたがって、黒田が落したのだと言われているのです。

このときの戦いで、こんなエピソードが残っています。

西郷隆盛は、山田の手腕を信用していませんでした。山田が総督として函館へ向かうことに対して、「あのこわっぱに何が出来る」と大村益次郎に食ってかかります。西郷は、鹿児島へ戻って兵を連れて函館へ行こうとし、大村に止め

られます。「山田は自分より若い、戦に闘っては自分よりとてもよく知っている。西郷さんが薩摩まで戻って兵を連れて函館に着く頃には、山田が函館を落して、戦争は終わっていますよ。無駄になるからやめときなさい。」

西郷は結局兵を連れて函館へ行きましたが、大村の言ったとおり、西郷が着く頃には函館は落ちていました。そして西郷は、「あのこわっぱ、用兵の天才でござす」と言って認めたと言われています。

当時の評価では、山田は「用兵の妙 神の如し（戦の手法が神のようだった）」と言われました。山田は全戦全勝でした。

しかし、明治時代の優れた軍人と聞かれて「山田顕義」と答える人はほとんどいません。なぜか。案外早く軍服を脱いでしまったからです。

秋山さんの著書「五稜郭を落した男」から

明治10（1877）年に勃発した土族最後の叛乱西南の役では、日本最強と言われた西郷軍を数ある新政府軍の旅団の中で山田市之允（のち顕義）率いる旅団のみが圧倒的な強さで追いつけていく。だが、神の如き軍才を見せながらも市之允自身は、列強と肩を並べするために、武器ではなく法をこの

国に導入し、後進の教育に尽くすことを残りの人生の主題とした。

維新後の市之允は、名を顕義と改め、司法大輔、司法卿、司法大臣などを歴任し、破れはしたが民法（民法法案で夫婦平等を説いて破れている）と、商法の作成に心血を注ぐ一方、日本法律学校（日本大学前身）を創設し、國學院を創立するなど教育関係にも尽力した生涯を送った。人材育成は松下村塾の悲願でもあったからだ。

市之允の胸の内には、明治25（1892）年に亡くなるまで、つねに松陰が生き続けた。享年49歳である。

山田顕義

(1844～92)

萩藩士の長男として、中の倉で生まれる。松下村塾に学ぶ。

久坂玄瑞らと行動を共にし、幕府側との抗争において京都の禁門の変で敗走。しかしその後、倒幕派の志士として諸隊を率い勝利に導く。

戊辰戦争（1868）では、鳥羽伏見の戦いで長州藩を率いて戦い勝利、新潟戦争では海軍総督として新潟を落とす。また函館戦争でも活躍。

維新後は、岩倉使節団に随行。法典整備に尽力し、第1次伊藤（博文）内閣の司法大臣に就任。以後、

黒田内閣、第1次山県内閣、第

作家 秋山香乃さん

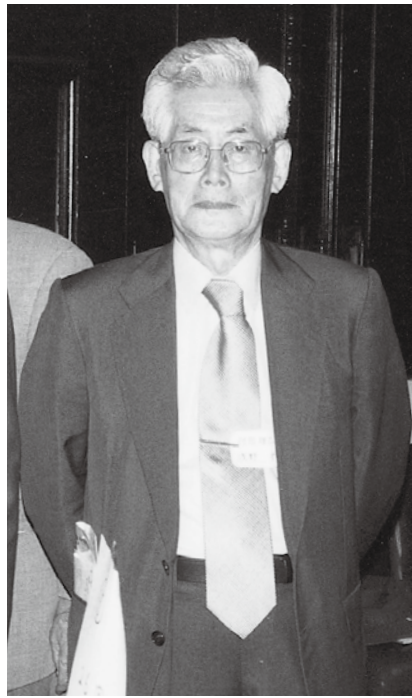
ズームアップ

東京指月会 会長
公立昭和病院 名誉院長

あさの
浅野

あきら
哲氏

東京都在住、萩市南古萩出身
昭和19年秋中卒、79歳



私の近況

公立昭和病院を定年退職して早や12年となり、外科医として50年余を馬車馬のように突走って来ましたが、漸く時間に制約されることが少ない生活を過ごしています。医者以外何の取得がなく、ま



●プロフィール
1968年、福岡県生まれ。北九州市在住。中学時代は演劇部でシナリオやコントを書く。その後、日本史に熱中、高校入学の頃より小説を書き始める。長崎活水女子短大で司馬遼太郎を研究。2004年に山田顕義を主人公にした「五稜郭を落とした男」(文芸社、1890円)を出版。

き受けました。大任を果たせるか不安もありますが、東京に出て以来、世話になったこの同窓会への恩返しのできる気持ちで務めたいと思います。

萩の思い出

両親が教師という仕事上、下関奈古(阿武町)を経て、萩中2年の時萩市内に住居を得ました。奈古の里山や海辺で遊びまわったこと、両親の教育方針により奈古小学校から明倫小学校に転校させられ萩中2年まで汽車通をしたこと、萩中5年間は、良き師、良き友に恵まれ、勉強をし、部活を楽しま、戦時中の厳しい抑圧下にありながら楽しい青春を過ごしたことなど、忘れることの出来ない思い出です。

年足らずですが、育んでくれた故郷は萩であります。



強風や松くい虫で失われた

萩への一言

萩は美しい景観と歴史上由緒ある史跡を持つ素晴らしいところで、萩を訪れた友人達も声を揃えて褒めてくれます。

町並みが変わるのは、時の流れで仕方ないかも知れませんが、萩の自然の美しさが次第に毀されて行く気がしてなりません。土原、平安古の稲田がだんだん狭くなるのは淋しい限りです。過度な再開発を避けて恵まれた自然環境を生かし、住み易い街であって欲しい

と思います。

東京指月会について一言。本会は、萩中、萩高女そして萩高校の卒業生が集う首都圏の同窓会支部です。総会には多数の方々が集まり親睦と交誼を重ねています。首都圏に出る若い人々には、同窓の仲間だけでなく同郷の上下の縦の繋がりを持てるので、奮って参加されるよう勧めます。

1次松方内閣でも留任。「法典伯」と呼ばれる。教育を重視し、現在の日本大学、國學院大学を創設。萩市椿東中の倉の誕生地は、「顕義園」として整備され、山田顕義の像が建っている(写真)。

プロフィール

- 昭和19年 秋中卒(44期)
- 昭和26年 東京大学医学部卒
- 昭和27年 東大付属病院第1外科
- 昭和35年 医学博士
- 昭和37年 国立東京第1病院外科
- 昭和45年 東京厚生年金病院外科部長
- 昭和56年 同上副院長兼外科部長
- 昭和60年 国立医療センター外科
医長兼救急部長(現国立国際医療センター)
- 公立昭和病院・院長
- 平成元年 定年退職・名誉院長
- 平成6年 東京指月会長



▲集落の山手にあるイノシシ牧場。現在約30頭のウリボウ(仔猪)をここで育てている。



▲自宅裏の雨よけトマト栽培用ビニールハウス前で。

インタビュー

特定農業法人
おぐに
「**小国ファーム**」
(むつみ地域)

代表
しもせ さかり
下瀬 盛さん
(萩市片俣在住、68歳)

県道萩津和野を通り、「道の駅／うりぼうの郷」で左折、国道315号をしばらく進むと山間に小国の集落がある。農家数は13戸、水稲を中心に雨よけトマトなどの産地としても有名。ここでは、平成13年に特定農業法人「小国ファーム」が組織され、集落営農が行なわれている。同法人の代表をつとめる下瀬盛さんにお話をお聞きした。

■平成8年、営農合理化組合の立ち上げ

小国地区は平成7年に圃場整備が実施され、それまで3〜5a程度であった水田が20〜30aの大きな水田に変わりました。それにもなつて、戸別経営では非効率なことが多く、大型機械の共同利用などを目的に、平成8年、「小国営農合理化組合」を立ち上げました。

平成12年度に中山間地区直接支払制度が始まり、当地区は集落協定に基づき、①法人化に向けての検討、②多面的機能の増進としてイノシシ牧場を中核とした都市住民との交流、③特産品販売施設を利用したシシ肉や農産加工品の販売、この3つをスローガンに掲げ活動してきました。

■農地は地域の財産として、地域を守る

その後も集落内で話し合いを重ね、平成13年、「農地は地域の財産として、地域で守る」を基本理念とし、特定農業法人「小国ファーム」を設立。

これまでの合理化組合と違って、農家の土地自体を法人が借り上げ、共同で営農する形態のため、おのずからその収穫物は法人の所有となります。そのため、米を作っている本人が、お金を出して米を購

入するどのような現象や、個別農家の自由が利かないなど、設立当初は構成員の戸惑いもありました。

しかし大型機械施設の共同利用、営農経費の共同化、経理事務の一元化など、法人化による数々のメリットへの理解が進み、今では運営も安定してきました。

■5つの部会を独立採算制で運用

現在の組合員数は26人(13戸)、水稲・転作野菜・イノシシ・加工・トマトの5つの部門を独立採算制で運用しています。水稲部会では主力のコシヒカリ、転作野菜部会ではブロックローテーションによる大豆、イノシシ部会では道の駅でのシシ肉の計画販売、加工部会では女性部によるかき餅・餅などの製造販売、トマト部会では名物「雨よけトマト」の減農薬・減化学肥料栽培に取り組んでいます。

また、都市部住民との交流については、平成17年の10月9日、「みよりの感謝祭」を開催。トマトの収穫体験やコンバインでの刈り取り体験などを実施、50人を超える参加で賑わいました。参加者の楽しそうな顔を見て、来年以降も継続しようとの思いを強くしたところです。

■片俣地区5集落での集団営農を目指す

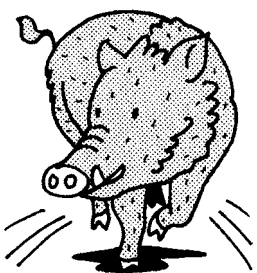
今後の展開について、どうしても1集落13戸の共同化では、その効果が限定的なものとなってしまいます。5年後、10年後に継続した営農ができる仕組みを作っていくためにも、片俣地区の5集落での集団営農を実現すべく、周辺の集落に働きかけ、話し合いを続けています。地区それぞれの特長事情もあり、簡単にはいきませんが、地域社会と一体不可分の地域農業を守っていくためには、絶対に必要な施策であるとの信念のもと、粘り強く取り組んでいきたいと考えています。

■プロフィール

1937(昭和12)年小国に生まれる。68歳。

中学卒業後、家業の農業に従事。27歳で農業委員に、71年には農業委員会の会長就任、78年には旧むつみ村の村議、90年には議長など公職を歴任。

消防の分野でも活躍、現在むつみ方面団長をつとめ、05年度の県選賞社会活動を受賞。



シリーズ①

萩の元気企業探訪

(株)岸田商会

ポン酢で有名な(株)岸田商会、06年度に新たな展開を始めるという話を耳にし、専務取締役大中隆義さんを訪ねました。



▲本社(土原)

東京青山一丁目にアンテナショップ開業予定

酒類の卸部門は山口県北部が中心ですが、ポン酢製品については全国区で営業展開しています。その中でも一番のシェアを持つのが首都圏。現在は四谷に支社を置いていますが、このたび青山一丁目用地を取得、自社ビルを建築中です。

このビルは地下鉄青山(〇〇線)一丁目駅から至近の距離、ビルの一階には、この立地を生かしてポン酢を使った和風レストランを開業する予定です。席数約40席とこじんまりとした店ですが、一流割烹の指導のもと、鍋ものだけでなく、ポン酢の持つ可能性を生かした新しい創作料理を提供、またそこで開発したメニューを取引先である料理店や一般消費者にPRし、ポン酢製品の需要創造に繋げていきたいとも思っています。開業は2006年5月の予定です。

新製品

「だいたいドレッシング」

一方、新製品についてはここ数年出していないかったのですが、来春、だいたいベースのドレッシング

を2種、商品ラインナップに加える予定です。現在、試作の最終段階です。ともに、だいたいの風味を生かした製品で、醤油をつかったものと、醤油を加えないもの。

特に非醤油系のドレッシングは、だいたいの風味がストレートに生きて、我ながらの自信作です。市販のドレッシングは数多いですが、これは一味違った、そして萩らしい製品になると、今から製品の完成・販売開始が楽しみです。

生産拠点を拡大と海外市場

長いスパンの計画というか、夢みたいなものですが、将来的には生産拠点を萩以外にも展開したいと考えています。現在製造は全て萩で行っていますが、地震をはじめとする災害等で交通寸断になった場合、商品供給ができなくなる危険性に備えてのリスク分散ということです。全国各地で当社の商品を使っていたらいてるお客様に、安定して商品供給するということは、メーカーの責務として、とても大事なことで感じています。それと、海外市場。現在も商社経由で、当社製品が海外の日本料理店向けに輸出されていますが、日本企業の海外進出や海外での日本料理ブームの中、これからの市場は有望と考えています。先日南アフリカの日本料理店で当社製品が使われていると聞き、自社の製品が赤道を越えていることに感激に近い感情を覚えたものでした。



▲大中隆義さん

■プロフィール

大中 隆義 1966(昭和41)年秋生まれ、39歳。萩市呉服町在住。明倫小→明経中→萩商業→東亜大を卒業。89年、アサヒビール飲料株式会社入社、94年株式会社岸田商会入社、現在同社専務取締役。05年度社団法人萩青年会議所理事長。座右の銘は「勇往邁進」、趣味はゴルフ、バイク、車。

★プレゼント

(株)岸田商会から、ポン酢製品の詰め合わせセット(3000円相当)を3名様抽選でプレゼント。ご希望の方は、官製はがきに住所・氏名・電話番号・近況など明記の上、萩ネットワーク協会・プレゼント係あてにご応募ください。平成18年1月31日締切。

ふるさと便り

2005年もあつという間に過ぎ去りました。萩市も、3月に新「萩市」が誕生し、節目の年となりました。皆さんにとっては、良い年となりましたでしょうか。

それでは、田万川地域からスペインまつり、萩地域から萩市民球場解体、お隣の阿武町からジャズコンサート開催の話題をお届けします。

田万川地域

フラメンコ de スペインまつり (10月)

10月29日、田万川中学校体育館で「レ国民文化祭」たまがわスペインまつり」が開催されました。

多磨小学校の児童によるかわいらしいフラメンコで幕を開け、地元ロス・アミーゴス田万川による華麗なフラメンコが披露されました。また、地域ボランティアが調理した、パエリアなどのスペイン料理は好評で300食がすぐに完売しました。

「第21回国民文化祭」フラメ



▲ロス・アミーゴス田万川の小学生

ンコ部門は、06年11月4日・5日、田万川コミュニティセンターを中心に開催されます。田万川地域の民話を題材にした創作フラメンコの発表や、フラメンコを見ながら食事を楽しむタブラオも開かれます。

萩地域

萩市民球場(9月) さよなら

1956年から約50年の歴史があり、多くの人に愛されてきた萩市民球場が、老朽化と萩ウエルネスパークのスタジアム完成のため取り壊しとなりました。

オープニングは、北浦地方初のプロ野球公認球場で、収容人員は1万3000人、総工費約3700万円。工事には延べ2万6000人の関わりがありました。晴れの球場開きには、プロ野球1軍の阪急・広島戦を開催(内野A席200円)。

1963年(昭和38年10月)の山口国体ではソフトボールの主会場となり、昭和天皇、皇后両陛下が御臨席されました。跡地は公園を整備する予定です。

解体され更地となった球場跡地▶



阿武町 小さな町の大きなコンサート 5000人を魅了!! (5月)

ニューヨークのピアニスト10人が競演するジャズコンサート「ワンハンドレッド・ゴールド・フィンガーズ」が5月29日、町民センターで開催され、県内外のジャズファン5000人が来場しました。

このコンサートは、東京や大阪など大都市を中心に全国10か所を回るツアー公演で、阿武町はもちろんな山口県初上陸。主催は阿武町の有志や萩の喫茶店「ヴィレッジ」らを中心に結成。阿武町制50周年を記念しました。

全席指定8500円という高額チケットでしたが、県内外から注文が殺到、販売2週間後には全512席が完売する人気。

ケニー・バロンやシダー・ウオルトン、秋吉敏子など10人のピアニストが奏でるジャズミュージックに終始魅了された観客は、アンコール曲「A列車で行こう」演奏時には文化ホール史上最高の盛り上がりを見せ、全員がスタンディングオベーション。

「観客と一体になれるので小さい会場は大好き。ピアノも音響も素晴らしかった」とピアニストからも大好評。小さな町の大きなコンサートは、大盛会のうちに幕を降ろしました。



▲アンコール曲「A列車で行こう」を競演



▲ケニー・バロン

同窓会だより



9月25日
三見同窓会
銀座アスター
お茶の水賓館(東京)

く宮木宗史さんからの投稿です。7回目の三見中学校同窓会が開催され、18人が集まりました。三見という狭い地域に生まれ育った同窓生が、毎年9月に年代を超えて集まっています。みんなが集まれば、心はスーと音にタイムスリップして、校舍や畑・田んぼ、真っ黒になって泳いだ海や小魚を追った川が目の前に現れてくるようで、「妙子ちゃん」、「勉ちゃん」、「正樹ちゃん」、そんな雰囲気の同窓会です。

今回は、2006年9月16日開催予定です。東京近郊にお住まいの三見中学校卒業生の方、ご連絡下さい。まだ出席されたい方もどうぞ一度お見えになってみてください。連絡先は坪井良子(35年卒) 03:3955:9058

11月26日
萩地区4校合同同窓会
唐戸カモンワーフ(下関市)

66人出席。今回は3年に1度開催される萩高、萩商、萩工、萩光塩の合同同窓会。総会では、会長や支部長の挨拶のあと、萩商業・萩工業の統合や、平成18年春に、萩高校北側事務棟が、なまこ壁を基調とした建物に建て変わるなど近況報告がありました。

懇親会は、下関唐戸魚市場提供による下関ならではのふく鍋、ふくさしを食べながら、ふくのひれ酒やまろやかで口あたりのよい身酒を飲んでの和気あいあいとした楽しい会になりました。

また、1等ふくフルコースがあたる空クジなしの抽選会では、番号が読み上げられるたびに、会場内から大きな拍手と歓声が上がっていました。下関巴城会事務局は益田宗親(0832:32:3387益田耳鼻咽喉科)、たねばな会下関支部事務局は中谷満正(090:5081:8545)



11月19日
東京須佐会
たかなわきょう
日立金属高輪和彊館(港区)

く清地治正会長からの投稿です。野村萩市長、益田都さん(第37代故益田兼泰氏ご令室)、須佐からも和田総合事務所長や須佐地域づくり研究会の品川、潮、岩本の各氏等のご来賓を仰ぎ、総勢70人の会を挙行でき幹部一同衷心より喜び感謝しております。

合併を機に萩市須佐、弥富が更に飛躍するように、年に一度の総会だけでなく春の新宿御苑の長州緋桜の花見や、インターネットを最大限活用し地元萩との交流を深めたいと存じます。更に皆様のご指導ご鞭撻をお願い致します。事務局は勝山義康(0462:55:6207)



★事務局からのお願い
クラス会、同郷会の投稿記事をお待ちしています。萩ネットワーク事務局まで、お送りください。

会員からのお便り

ゆるぽっくす

○林 賢治(埼玉県川越市)

同期松野の死には、びっくりしました。闘病生活つらかっただろうな。いい仕事できて良かったね。天職だと言ったよな。最近、ヨットにこつてて俺を乗せてくれると言ったのに実現しなくて残念！萩ネットワークでとりあげてくれて、同期の皆も喜んでいてと思います。

龍司、益には、またこの世に戻ってきなよ。

○猪山典子(福岡県久留米市)

日毎に秋めいてゆく季節になると無性に「萩」が恋しくなってしまう、高い空を見上げて飛んでゆきたくなっています。でも現実はいま。本日届いた萩ネットワークを、今夜は隅々まで読み尽くしましょう。

○近藤安弘(東京都練馬区)

新しい萩が将来志向で各種の事業に取り組んで居られる姿に、拍手を送ります。

新日鉄のような大企業でも、鉄だけでなく飲料や鰻を飯の種にしています。本業一本で飯が食えれば幸いです。大きくならなければならぬ。いだろうと思います。

ホームラン(頑張ったとしても年間わずか40本)でなく、ぼてぼてのゴロでもイチローのように懸命に走ってセーフにする。このパワーが大切ですね。

NHK-BS おーいニッポン (山口県) 萩藩毛利家の殿様御膳を再現



05年12月4日(日)に6時間に渡り、全国放映されたNHK・BSの「おーいニッポン(山口県)」の萩からの生中継では、萩焼窯元・岡田窯での窯出し風景や、城下町に灯された竹の灯りなどが紹介されたほか、萩の初代藩主・毛利秀就がお国入りした際のおもてなし料理を大照院にて再現。料理監修は「萩藩毛利家の食と暮らし」の著者・江後迪子さん、萩の割烹「千代」の河村〇〇氏が調理を担当。

してあった。ここでは当時の文書記録を元に、メインとなる本膳・二の膳・三の膳・御向詰を再現してみた。

【本膳】塩鮭(塩引きした鮭の焼物)、干鯛(真鯛の開きの焼物)、雉子(雉肉の蒸し焼き)、蒲才(蒲鉾をさいの目の切ったもの)、削物(鱈節を削ったもの)、海月(クラゲの酢の物)、焼ぶり(ブリの焼物)、飯(ご飯)

■関連書籍の紹介

毛利家の暮らし・食事に関心のある方は、右記をご参照ください。

「萩藩毛利家の食と暮らし」

05年3月初版発行

著者 江後迪子 (株)つくばね舎

(03.5688.6866)

定価 2200円



■式正料理(部分 本膳)回話
慶長16年(1611)12月28日、初代藩主・毛利秀就の萩入城を祝う「式正」の振る舞い。「式正」とは儀式の時の料理様式のこと、式三献に続いて本膳として七献までが出された。当日提供された膳数はなんと480人分、毛利家の権威を表す最大級のもてな

萩国際大学

1年の動き

●6月21日 民事再生法適用を申請

定員割れで経営難に陥り、東京地裁に民事再生手続開始の申立を行う。負債総額は約37億円。広島県の大証2部上場企業で建築設計業を中心に、老人ホームや保育所を運営している「塩見ホールディングス」が再建支援に名乗りを上げる。

●8月1日 理事長交代

理事会で安部一成理事長が辞任。新理事長に、塩見ホールディングスの関連会社で老人ホームを運営している株式会社「寿」代表取締役の村本章治氏が就任。

●10月11日 再生計画案を提出

東京地裁に再生計画案を提出。計画案では、07年4月に、「ライフデザイン科」(1学年200人)を開設し、保育士や社会福祉士など福祉に貢献できる人材育成を目指すという内容。

●06年1月(予定) 債権者集会

計画案が承認されて東京地裁が認可すれば、6月にも文部科学省に新学部設置を申請、大学の名称変更も検討。

萩 旬の味覚便り

萩のおせちの定番 干しフグ



●新年に、福を招く、干しフグ

干しフグ、北浦の郷土料理素材で、お正月から「福を招く」として、おせち料理に使われてきました。全国一般に棒ダラの煮しめが普通ですが、萩では前浜に揚がるシロサバフグやクロサバフグの干物を使って煮しめを作ります。材料となる干しふぐは、一匹のフグを頭から三枚におろし、尾の部分をつなげたままカチカチに干したものです。ちよつと見ただけでは、正体が知れない製品で、店頭でも「これは何ですか?」とよく質問をお受けします。かつて、昭和30年代頃までは、生のフグを買い求め、干しフグを自作する家庭も多く、萩の街のあちこちで軒先に干されたフグが見られ、萩の暮れの風物詩だったとか。

●スローフードの極み

料理法は棒ダラの煮しめとほぼ同様。米のとぎ汁に2週間ほどつけて、戻す作業から始まり



▲煮しめの完成。棒タラよりもぐっと深い味わい

糖で味付け、さらにコトコト者詰める。とつても手間と時間がかかる料理で、スローフードの極みといったところ。味は文句なしに美味、噛み締めるたびに、フグのコクと香ばしさが口に広がります。現在では、生産自体が少量であることから店頭に出回ることが稀で、なかなか入手が困難な商品です。道の駅萩しーまーと(0838.24.4937)、または萩市内の海産物製造所に直接問い合わせみてください。

ます。毎日朝夕、とぎ汁を換えて柔らかくなったところで一口大に。これを、番茶でアクをとりながら30分ほどゆで、いったん汁を捨てる。次に、出汁とお酒で30分ゆで、その後、醤油、みりん、砂糖

11月1日に設置式

萩商工高校



◀女子はブレザー、男子は詰襟の制服

県立高校再編に伴い、萩商業と萩工業が統合され06年4月に開校する「萩商工高等学校」が、11月1日に現在の萩工業に設置され、設置式が行われました。

設置式では、菊地昇・萩商業校長と浅原司・萩工業校長の2人が玄関前に開校準備室の看板を掲げました(写真上)。萩工業と兼務で萩商工高校長となる浅原校長は「両校の歴史と伝統を引き継ぎ、さらに発展させ、生徒一人一人の興味と関心、進路希望などに応じた選択幅の広い教育の推進を目指したい」と決意を述べました。

萩商工高は、総合ビジネス科(70人)、国際情報科(35人)、機械科(35人)、電気科(35人)、建設工学科(35人)の5科で定員は210人。特徴としては、工業科の生徒が商業部門を学べるシステムを取り入れ、専門的なことを幅広く学べるようになり、生産から流通・販売まで一貫した学習ができます。

06年度から08年度前半までに老朽校舎や商業の学習施設等の整備を行う予定で、その間は仮設校舎や萩商業の校舎を活用するという事です。

現在の同窓会や萩商業跡地の利用については、協議中また未定の状況です。

「北の総門」に門番役

ポランテアでご案内候

堀内の城門「北の総門」に、昔ながらの衣装を着た門番がお目見えしました。地元堀内町内会で行く「萩城下ご案内候の会」が、毎週土・日曜日と祝日に交代で門番に立っています。

北の総門は藩政時代、城下から萩城三の丸に入る門の一つで、高さ7m、柱間5.9mで国内では最大級の高麗門。

観光客に毛利藩政時代の面影を楽しんでもらおうと、門番を企画。京都市の太秦映画撮影所が時代劇に使っている江戸期の衣装を、参考にして製作。1着6万5000円。会員など約10人が交代で立つ。「城下町・萩をしのぶ」の一つの時代姿がよみがえる。萩博物館や外堀周辺の観光案内、記念撮影に「役買いたい」とご案内候の会。



萩をもっと知って 萩ものしり博士検定

萩まちじゅう博物館では、萩の豊かな自然や歴史、文化などを楽しく学びながら知識を深めてもらおうと、「萩ものしり博士検定」を創設。11月27日初の修士検定が、旧藩校・明倫館の剣槍術稽古場「有備館」などで開催され、県内外から234人が受験し、9割を超える213人が合格しました。

試験は、教科書にはない歴史や文化、自然など計678問の幅広い雑学をおさめた「萩ものしり博士検定問題集」(発売中、税込1000円)から90問、萩博物館の常設展示から10問の計100問を出題。8割以上の正解で「萩ものしり修士」に。次回から、修士の取得者が博士に挑戦できます。京都や岡山、九州の観光検定試験にならって市民、観光客の関心を高めようと企画。特典として、修士・博士しか聴講できない講演会も計画されています。



▲和服姿の受験生と試験官

「手作り郷土賞」(地域整備部門) 受賞

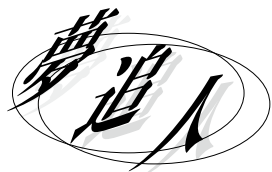
国土交通省の「手作り郷土賞」(地域整備部門)を萩博物館が受賞しました。これは、地域の個性魅力を創出する施設や活動を表彰するものです。萩博物館は、まちじゅう博物館の中核施設として整備されたこと、管理運営は市民有志が会員である「NPO萩まちじゅう博物館」が担っていることが評価されました。

開館1周年を迎えました

萩博物館は、11月11日に開館1周年を迎え、1年間の入館者数は当初の予想を上回る14万6132人でした。また月別の最高入館者数は、開館した2004年11月の2万3486人です。

萩まちじゅう博物館

(0838-25-3056)



陶芸家

金子司

つかさ

さん (35歳)

(萩市三見在住)

2005年11月19日〜27日、萩市呉服町の彩陶庵ギャラリーで開催されていた金子司・個展「RESTART カネコツカサノカタチ」を訪問した。
会場にはこの6月開窯された三見畦田の工房で作られた新作を中心に、これまでの作品の数々が展示。萩焼の次代を担う作家と注目を集める金子さんに話を聞いた。

光塩小から指月中学に進み、高校は長門、卒業後は福岡の専門学校でインテリアデザインを学びました。萩に戻り、親しい友人たちが萩焼の道に進んでいたこと、また叔父が城山窯(金子信彦)を主宰していたことなど、当時の自分のまわりの環境が萩焼に非常に近

かったということ、自然に陶芸の世界に入りました。

21歳で城山窯に勤務、叔父の金子信彦氏に師事し、萩焼の仕事が続けてきました。その当時から「自分の形」にこだわり、自分の思いや意図をしつかり表現できる作品作りに取り組んできたつもりで

す。中島大輔さん、濱中史朗さん、野坂和左さんなど若手作家とのグループ展「萩4人のうつつわ」(03年3月、05年3月彩陶庵にて)を開催したり、個展も積極的に開催してきました。

04年の年末に13年間お世話になった城山窯を退職し、05年1月独立しました。3年前、子供たちが小学校に上がる時期に購入し住まいとしていた三見の農家に、この6月、ガス窯を設置したアトリエが完成。今回の個展「RESTART(再出発)」は、新しいアトリエでの新しい出発を祈念したのもでもあります。

城山窯勤務時代は、一つの窯に自身の作品を含め複数職人の作品が入るので、たとえば、自分もつと高い温度で焼きたいと思っても、他の作品の関係でどうしてもそれが出来ないということがありました。また分業体制でもあるので、言ってみれば、窯に入る時点で、作品が自分の手から離れてしまいうんですね。今回、自分専用の窯を持ったことで、最終工程まで自分の思い通りの作品作りができるようになりました。

独立し、アトリエを持ったことで、時間的な自由と、自由な創作環境を手に入れた訳です。これを活かして、これからも、「自分の形」を追い求めていきたいと考えています。

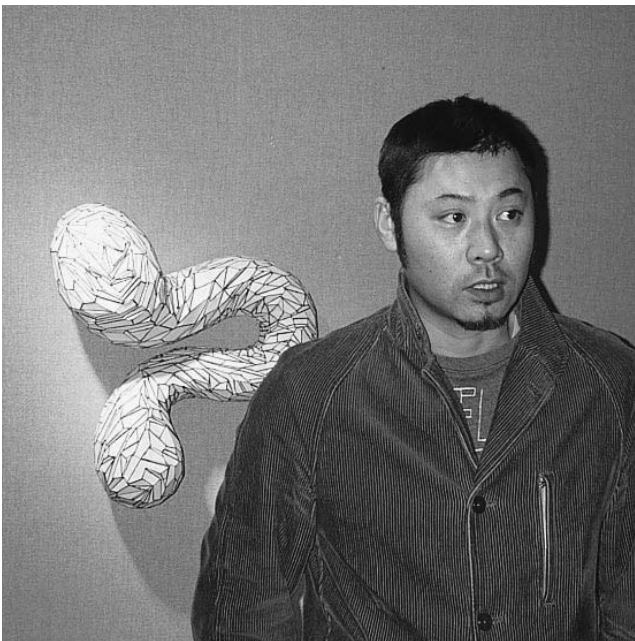
▶色鮮やかなキノコの造形。四季折々の季節感を大切に、そのシーズンに合った作品を作っていきたいとのこと。個展では、年末向けに、クリスマスツリーをイメージしたオブジェも展示されていた。



◀新しい工房にて。敷地は800坪、建物はおよそ200年以上も前の農家を改築し住居兼仕事場に。「広い土地があるので、倉庫を建てたり、自由にいろんなことができそう」

●プロフィール

1970年(昭和45年)萩市生まれ。91年陶芸をはじめ。金子信彦に師事(城山窯)。96年萩市美展大賞、山口県美術展覧会入選。97年山口県美術展佳作。00年益子陶芸展入選、山口県美術展優秀賞。04年朝日陶芸展入選など。05年1月独立、萩市三見畦田に開窯。



▲個展を訪れたお客様に作品説明をする金子さん。平易な言葉で、丁寧に説明する姿はとって好感。オブジェは、自宅の敷地に出現するモグラの穴の形からイメージしたという。



▲オブジェ中心の展示の中、小皿やカップ・小物入れなどの日常陶器も展示されている。「例えば、カップは普通こういうカタチ、という決まりきった枠みがないものに対して、どうもしっくりこない」と金子さんの独特のこだわりで、既成概念の枠を越えた魅力的なカタチをしている。写真は、リバーシブルの物入れ。



陶芸家 野坂康起さん

中国文化賞 受賞

11月10日、山口県指定無形文化財萩焼保持者の野坂康起さん（萩市山田在住、74歳）が、「中国文化賞」を受賞されました。

「中国文化賞」は、中国地方の学術・文化の分野で優れた功績を挙げた人々をたたえる賞（中国新聞社主催）で、萩では平成11年度の三輪休雪（龍作）さん以来の受賞。今年の受賞は野坂さん以外

では、広島県の4人、島根県の1団体でした。

野坂さんは、三重県の生まれ。16歳で陶芸と出合い、27歳のときに、萩の窯元に養子に迎えられました。

ざらざらとした手触りが特徴の伊羅保釉（いらほゆう）を駆使し、萩焼の伝統を踏まえつつ、その釉の効果によって表現の幅を押し上げたことが評



価されました。

今回の受賞について、「怠らず、できることをやり続ける。美しいものを美しいと感じる心を大切に」と語られています。

写真家 下瀬信雄さん

伊奈信男賞 受賞

11月2日、萩市の写真家、下瀬信雄さん（萩市瓦町在住、61歳）が、「伊奈信男賞」を受賞されました。

「伊奈信男賞」は、その年に行われたニコンサロン写真展のなかから最も優れたものに贈られる賞で、プロの写真家を対象とした賞としては上門拳賞、木村伊兵衛賞と並ぶ国内最高峰のものの一つです。

下瀬さんは、中央での発表の場をニコンサロンと決め、これまで10回の個展を開催してきました。

1996年頃から、それまで作品の中に混在してきた植物を特化し、「結界」と命名してシリーズ化。今回受賞した「結界V」にはモノクロ50点を出品しました。

「我々が獲得した現在の文明の質を問おうとする行為―作品―に深い思想性と鋭い批評性を感じられる」と評価されました。

今回受賞した写真展「結界V」は、12月の東京に続き、1月12日から、大阪ニコンサロンで展示されます（詳しくは、14ページ）。



▲受賞した「結界V」より
オオバインモトソウ・サツマイナモリ

萩博物館だより

※年末年始も開館します

●企画展

発掘された城下町

出土品が語る江戸時代の萩
1月22日まで
萩城外堀遺跡などから出土した遺物が語りかける萩城下の人々の暮らしや技術を探る。

幕末長州藩の科学技術

大砲づくりに挑んだ男たち
2月4日～4月9日
幕末期、萩の郡司鑄造所では洋式大砲を鑄造していました。
萩市の郡司鑄造所跡の発掘調査によって出土した多様な遺物や、郡司家伝来の文献資料等を通して、長州藩におけるモノづくりの一端を紹介いたします。

萩の神仏と信仰（1月11日～2月5日）、「雪月花―雪―」（2月7日～3月12日）

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

●企画展

鏡の中の宇宙展

3月12日まで
中国山東省の春秋・戦国時代から清時代までの出土品を中心に銅鏡80面を一堂に集め、銅鏡文様に表された世界観を展観。

●浮世絵展示 「葛飾北斎 富嶽三十六景」（1月9日まで）、「江



●萩再発見ギャラリー
「知ってる？萩の海のこと 2005」 2月2日まで

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 なし
※年末年始も開館します。
入館料 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生100円

●東洋陶芸展示 「鎮魂の造形―陶備―」（3月12日まで）

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 月曜日（祝日・休日の場合は翌平日）
※1月2日までは年末年始のため休館。
入館料 一般1000円、学生800円

情報アラカルト

関東地区

■柳井嗣雄展「絵による彫刻と未発表ドローイング」

萩市出身、国立市在住の現代美術家 柳井嗣雄さん（昭和47年萩高卒）の作品展。

とき 1月16日（月）～28日（土）
ところ 東京都台東区浅草橋1-7-7 マキイマサルファイナーツ
（03・3865・2211）

■おいでませ山口館のイベント

●冬のあつたか鍋物フェア
萩のふぐ製品、ポン酢などが販売されます。

とき 1月16日（木）～21日（土）
ところ 東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル1階
おいでませ山口館
（03・3231・1863）

◆1月下旬、2月には、「山口ふくふくまつり」、「山口海物語フェア」などを開催する予定です。東京駅近くへお越しの際は、ぜひ「おいでませ山口館」へ足を運んでみてください。

詳細は、HPをご覧ください。
■茨城県陶芸美術館開館5周年記念「日本陶芸100年の精華」

陶芸家 兼田昌尚、三輪壽雪、十二代三輪休雪、三輪和彦、岡田裕の作品が展示されます。

とき 1月21日（土）～3月21日（火）
ところ 茨城県笠間市笠間23-45 茨城県陶芸美術館
（0296・70・0011）

■おいでませ山口展

萩市の切り絵作家 上田豊治さんの作品や、陶芸家 松尾優子さんの萩焼、萩市の特産品等が展示販売されます。

とき 1月31日（火）～2月5日（日）
ところ 東京都中央区日本橋 日本橋二越本店
（03・3241・3311）

■八代天龍山窯就任記念 陶'06兼田昌尚展

とき 2月7日（火）～13日（月）
ところ 東京都中央区日本橋 日本橋二越本店
（03・3241・3311）

■岡田裕還暦記念作陶展

とき 3月22日（水）～27日（月）
ところ 東京都豊島区 池袋西武
（03・3981・0111）

■三輪和彦 花冠展I地、天を指すI
とき 3月22日（水）～28日（火）

ところ 東京都中央区 高島屋日本橋店
（03・3211・4111）

■伝統的工芸品展 WAZA 2006

萩陶芸家協会の陶芸家約15人の作品が展示、販売されます。

とき 2月16日（木）～21日（火）
ところ 東京都豊島区 東武百貨店池袋店
（03・3981・2211）

関西地区

■第30回伊奈信男賞受賞作品展 瀬信雄展「境界V」

13ページで紹介した萩市の写真家 下瀬信雄さんの作品が展示されます。

とき 1月12日（木）～24日（火）
ところ 大阪府北区梅田2-5-2 新サンケイビル1階ニコンプラザ大阪内 ニコンサロン大阪
（06・6348・9722）

中国地区

■おいでませ山口館（広島）の新春イベント

フグ、ウニなどを詰め込んだ福袋を販売（数量限定）します。
とき 1月5日（木）～10日（火）
午前11時～午後7時
ところ 広島市中区紙屋町2-2・2紙屋町ビル1階

（082・504・7001）

山口県関係

■毛利博物館の企画展

●正月飾り
初代萩藩主毛利秀就（まるとし）の太刀のほか、毛利元就の甲冑など、毛利家の祖先の栄光を称える品々や、家の永続と子孫の繁栄を祈る吉祥の品々を展示します。

とき 1月29日（日）まで
●お雛さま
毛利家の女性にまつわる品々を展示。
とき 2月5日（日）～4月9日（日）
ところ 防府市多々良1・15・1
（0835・22・0001）

萩市関係

■萩のイルミネーション

●JR萩駅前「萩イルミネフェスタ」
とき 1月7日（土）まで午後6時～11時

●萩市役所前庭
とき 1月4日（水）まで午後5時～11時

●JR須佐駅前
とき 1月10日（火）まで午後5時～10時30分

■ヴィレッジのコンサート
●鈴木良雄（ベース）トリオ

第52回

日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、波多野善藏、波多野英生、止原伸郎、野坂和左、松尾優子の作品が展示されます。

高松展 1月6日（金）～22日（日）
香川県文化会館広島展 1月25日（水）～2月5日（日）
天満屋広島八丁堀店
福岡展 2月8日（水）～13日（月）
福岡天神岩田屋

仙台展 2月21日（火）～26日（日）
三越仙台店
大阪展 3月1日（水）～6日（月）
そごう心齋橋店

とき 3月12日（日）午後7時
ところ 萩市土原 喫茶ヴィレッジ
（0838・25・6596）

■俣野大十平の企画展

●印伝展
鹿革に漆で柄付けした伝統工芸品の財布、バッグ展です。
とき 1月7日（土）～15日（日）

●小黒三郎 組み木展
組み木の第一人者小黒三郎のおひな様や端午の節句ものの作品展。
とき 2月24日（金）～3月5日（日）
問い合わせ 萩市南古萩町33・5

傳 宿天十平

(08338・266・6474)

■萩人形展

萩の自然と文化をテーマに生まれた高さ10cmの人形が展示されます。

とき 1月31日(火)まで

ところ 萩市椎原 伊藤博文別邸
(08338・255・3527)

■萩城下の古き雑たち(2ページ)
とき 2月3日(金)～4月3日(月)

ところ 萩市呉服町 旧久保田家住宅(菊屋家住宅むかい)

問い合わせ 萩市観光課
(08338・255・3139)

新規加入会員ご紹介

(10月17日～12月20日)

加入者13人

- 大田忠幸さん (萩市)
- 和田真教さん (萩市)
- 山根弥一さん (萩市)
- 小野昭治さん (萩市)
- 尾木満さん (萩市)
- 小田純弘さん (千葉原市原市)
- 阿武寛さん (萩市)
- 山本司郎さん (萩市)
- 福島正雄さん (萩市)
- 仁保光昭さん (萩市)
- 水津節子さん (萩市)
- 豊田實さん (大阪府箕面市)
- 西山明さん (愛知県安城市)

出版情報

■柳井三甫さん句集「郷巡り」

阿武町出身で、萩市で俳人同人「砂丘柳山会」を主宰している柳井三甫さん(62歳)の初俳句集。320句を紹介。

B6判/185ページ

問い合わせ 柳井さん
(08338・255・1805)

■中国新聞連載「萩まちじゅう博物館」史都の息吹

05年11月から毎週日曜日に掲載。「吉田松陰」、「久坂玄瑞」、「高杉晋作」など、萩ゆかりの人物、ものが大判の写真数枚とともに紹介されています。

■「楽蔵」(仮)

団塊の世代を対象にした、関西発の旅とライフスタイルマガジン。女優の左時枝さんが10年前にロケで訪れたという田中別邸や、萩博物館、平安橋等を紹介しします。

1月下旬に創刊号が発行。年4回の発行予定。

A4判/約120ページ

価格 880円(予定)

発行 山と溪谷社
(06・6374・2463)

■萩ものがたり予告(4月発行)
「吉田松陰と現代」「萩沖の魚たち」

■2006年カレンダー

●(有)マシヤマ印刷

「高杉晋作カレンダー」

晋作ゆかりの地や、彼の残した詩文とその解説。
A4判 13枚



●萩信用金庫

密航留学生「長州ファイブ」

B2判 1枚



★プレゼント

2006年カレンダーを各2名様に抽選でプレゼント。ご希望の方は、官製はがきに住所・氏名・電話番号・近況など明記の上、萩ネットワーク協会・プレゼント係あてにご応募ください。
締切 1月15日(消印有効)

高樹のぶ子

「HOKKAI」

防府市出身、芥川賞作家の高樹のぶ子さんが、初めての評伝となる「HOKKAI」を書きました。フランスのアル・ヌーヴォーに多大な影響を与えた日本画家 高島北海(1850～1931)の生涯を、史実にフィクションを交えた手法で浮き上がらせています。

高島北海は、侍医の次男として萩市江向で生まれ、明倫館に学びました。独学で墨絵を習得し、明治維新後は、農商務省に入り、渡仏。その間、アル・ヌーヴォー・ナンシー派のエミール・ガレらに請われて日本画を描き、和風の繊細な美術様式を紹介しました。また、長門峡、須佐湾など名勝地指定にも尽力しました。

小説では、一方的な記述を避けるため、「私」という女流作家、沙代子の文章が、小説そのものとなる構成をとっています。北海のひ孫の恋人の直二郎とともに、北海の留学先のフランスなどへ旅をし、北海の評伝を書き進めている、という設定です。その他にも、萩の明倫館で同窓だった乃木希典、下宿先の娘ミミ、北海本人の「私」が次々に登場します。それらの語りのうちに、フランス語を自在に



操り、日本画法でガレを震撼させ、有能な農商務省の官僚でもあった北海という人物が見えてきます。

◆著者 高樹のぶ子さんインタビュー
(毎日新聞11月18日夕刊より)

「私も同じ山口県出身ということもあり、北海の人生に心ひかれていました。もともとアル・ヌーヴォーのガラス器が好きでしたから、『事実』とは何でしょう。本人の日記に書いてあっても本当のところは分からない。本質を明快に際立たせるため想像力を發揮しました。私はフィクションの人間ですからね。

作者の私自身を含め、いつも揺れ動く『私』を書きたかった。線があるなら、それを崩したいといつも思っています。」

四六判変形/320ページ
定価 1680円
出版 新潮社

秋沖の島々を巡る

その⑦ 大島 (そのⅢ)

島巡りの旅は、今回で最終回。
壇ノ浦の戦いに敗れた平家の落人7人がこの島に流れ住みついたという「七名」の伝承、厄払い行事「星祭り」や「向こう干支」など、古くから伝わる風習も多い。【写真・文 中澤さかな】



①大島の鳥瞰

空から見た大島の全景。台地状の島の大部分が葉タバコ・ブロッコリーの畑地。畑地内にも建物が見えるがこれは耕作小屋、住居は港のある南斜面に固まっている。(写真は大島中学校のHPより)



②疫神社

疫病の流行から島を守る疫神社、島の集落のほぼ中央にある。神社の近くには五輪塔、宝篋印塔などが残されている場所があり、1440年頃の寺と墓地の跡ではないかとみられている。夜に鐘が鳴るという言い伝えから、かつてはこの場所を「チンチキ堂」と呼んだ。



③宝篋印塔 (ほうきょういんとう)

大島には、平家の落武者によって開発されたという「七名」の伝承があり、その子孫といわれるのが、長岡・刀禰・池部・国光・吉光・豊田・貞光の七旧家。なかでも長岡姓は全戸数の5分の1を超える。疫神社のかたわらに長岡氏の墓と伝えられる宝篋印塔がある。



④葉タバコ畑

かつては島の農産物生産量の8割を占めた葉タバコ。温暖で少雨、冬季に降雪・降霜のない気候は葉タバコの露地栽培に最適。写真は苗を移植して1ヶ月経過した頃のもの。夏期には薄いピンク色の可憐な花が咲くという。



⑤大島の新名物ブロッコリー

大島のブロッコリーは、昭和63年タバコ栽培農家の経営安定策の一環として、タバコの後作に試作導入された。品質の良さと消費市場の評価も高く、現在では大島の農産物を代表する商業作物となった。



⑥タマネギの選果

葉タバコ・ブロッコリーに次ぐ農産物が、大島のタマネギ。写真は農家納屋での選果風景。その他、米・さつまいも・ソバ・麦・大豆・橙なども栽培されている。



⑦背負子 (しよいこ)

路地で挨拶を交すご婦人たち。島を歩いていると背負子を背にした女性を頻繁に見かける。民具として大事に保存されているのではなく、写真のように現役で使われている。



⑧向こう干支

島内には、門の上に動物の干支をかたどった彫り物を掲げている家がある。これは、その家の主人の「向こう干支」(6年違いの干支)を表し、災いからその家を守ってくれるという。また、満31歳に達する男女の厄払いを目的とした「星祭り」(歳祝いとも呼ぶ)が現在も行なわれている。



⑨大島八幡宮

建立は文正元年(1446年)といわれ、安永9年(1780年)の大火により一度焼失したものを再建し、現在に至っている。御神体は、元永27年(1420年)の銘が入った木彫りの八幡尊像。境内あちこちに寄進札が大量に見られ、島の人たちに大切にされていることがわかる。